

日本防災士会 千葉北

第 32 号 2018 年 4 月 1 日発行

今号の内容

楽しく学ぶ子供たちの防災学習	1
地域防災リーダーの育成	4
北部支部会員さん紙上インタビュー	
杉江 潔さん	5
石田 健さん	6
会員短信 梅木 満さん	7
中村あや子さん	7
新井勝美さん	8
平山優子さん	8
追悼 藤下 進防災士	9
北部支部の防災支援活動	9
新会員紹介	11
編集後記	11

楽しく学ぶ

子供たちの防災学習

2017年12月26日(火)袖ヶ浦市立昭和小学校で行われ、北部支部、BCN、東京都支部が協力しました。袖ヶ浦市の赤十字奉仕団と災害対策コーディネーターも協力しました。

主催者の NPO 法人キッズパレット(袖ヶ浦市)は児童の放課後が豊かな生活の場となるよう児童の自由な個性を尊重しながら学童保育を行っており、4年前に防災体験学習をプログラムに取り

り入れました。昨年はホームページで北部支部の活動を知り協力を依頼しました。児童たちの反響が大変に良かったため今年も防災士会への協力依頼となりました。

防災教育は学校でも実施されていますが、キッズパレットでは特に「楽しみながら防災について学ぶ」ことを目指しています。昨年参加した児童たちからも「楽しく学べた」という多くの声と共に、「災害に興味を持った」「勉強になった」との感想が寄せられたことで成果が現れつつあると主催者では考えています。

今回も児童たちが楽しく防災について学べるように更に工夫が凝らされました。そのいくつかを紹介します。こうした工夫は反省と試行錯誤を重ねながら今後も続けられます。

- 地震サバイバル体験では、大きく広げたブルーシートに児童数人が乗ったところでスタッフがシートを左右から呼吸を合わせて引っ張って揺らし、地震の疑似体験を

しました。児童たちがしゃがんでダンゴ虫の姿勢を取って頭を守る中、周囲からは新聞紙を丸めて作った塊などが投げこまれ、地震では落下物の危険があることも体験しました。



地震サバイバル体験



津波サバイバル体験

- 津波サバイバル体験ではスタッフが海原に見立てたブルーシートで津波のような大きなうねりを起こす中を児童たちが全速力で駆けて高台（跳び箱）に逃げる体験をしました。
- 火災サバイバル体験では、屋内で火災に遭遇したとの想定で、煙を吸わないように姿勢を低くし煙に見立てたブルーシートの下を這って逃げる体験をしました。ここでもブルーシートが効果的に使われました。



火災サバイバル体験

この他に以下の学習・体験がサバイバル体験と同様に3グループに分かれて効率的に行われました。

- 防災講話
児童が集中力と興味を保てるように適切な問いかけを挟みながら地震と津波について松井防災士が映像を使って話しました。緊急避難時の大事な行動として「おはしも」が紹介されました。「お」は「押さない」、「は」は「走らない」、「し」は「しゃべらない」、「も」はもどらないです。「おはしも」という不思議な言葉が児童たちの心に残りいつか役に立つかもしれません。
- 起震車による地震の疑似体験

屋外の寒風の中で震度7のすごさに目を輝かせながら体験しました。子供たちの生き生きとした生命力が地域防災の大きな力になることが実感できる光景でした。

- 紙芝居による雷、火事、地震に対する避難行動の学習

白川恵防災士が演じる紙芝居の中には正しい避難行動を考えて答える場面が適切に挿入されており、児童たちが手を上げ、声を出し、意見を述べられるよう工夫されていました。地震発生の瞬間に身を守る動作や、自分が火災の第一発見者になった場合の行動訓練なども効果的でした。



防災紙芝居学習



ロープワーク

- ロープワークの学習

全ての児童たちが同時にロープ結びの実習ができるように長く張ったロープを練習台にした工夫は効率的で成功でした。会場にロープ端を固定する物があり指導スタッフの人数が確保できる場合にはこの方法によって多人数の児童、生徒が効果的なロープワーク学習ができると思われれます。

最後に保存食の説明とアルファ米の試食が行われ、講評のあと12時半に終了しました。キッズパレットではこうした催しの開催に、同施設で預かっている児童だけでなく地域の子供たちにも積極的に参加を呼びかけています。今回はキッズパレットの児童85名(小学1年から6年生まで)の他に地域の子供たちと保護者合わせて24名の参加があり、大人と子供が一体となって地域防災力を高める努力がなされていました。



地域防災リーダーの育成

野田市では地域防災を推進するためには地域の防災リーダーの育成が大切であると考え、3年前から地域防災リーダーを対象にした研修会を開催しています。地域防災リーダーとは各自治会の自主防災組織の責任者などです。研修会では単なる知識の習得だけでなく、実際の防災に役立てることができるよう、昨年からは北部支部の協力を得て参加型の研修会を開催しています。昨年はDIG研修を通して地域に住む要援護者たちをいかにして早く安全に避難させるかについて学びました。

今年は1月21日（日）野田市市役所でテーマを避難所運営（HUG）として156名の防災組織のリーダーを対象におこなわれました。女性の参加は12名で昨年の2名から増加しており、防災において女性が果たす役割が大きいことを考えると望ましい傾向です。研修は参加者を13グループに分けて午前と午後の2回おこなわれました。HUGは野田市では初めての研修で最初は戸惑いもありましたが、ゲームを通して災害発生時の混乱状況を少しでも疑似体験できたことは意義があったと思われまます。

研修の中で参加者からは以下のような点で判断に困ったとの声がありました。

- ペット同伴者をどこに避難させるか
- 持病のある高齢者、障害を持つ人などをどこに避難させるかなど

今回の研修を良い機会にして各避難所で部屋割計画や運営方法などについて具体的な検討と協議が進むことが期待されます。北部支部としても要請があれば今後も支援を継続してゆきたいと考えています。



全員参加のHUG研修



部屋割りを活発に討議

♪北部支部会員さん 紙上インタビュー♪

杉江 潔（すぎえ きよし）さん



Q.ご出身地と自己紹介を簡単にお願いします。

A.愛知県常滑市、セントレアのある町です。

Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A.化学繊維の会社で研究開発、工場経営、安全環境などの仕事を担当しました。

Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A 危険物処理、公害防止（水質）についての資格を持っています。ハザードマップに興味があります。

Q.防災士になられたきっかけはなんですか？

A.仕事では海外や遠隔地に長く勤務し、地元とのつながりが薄くなっていました。職場での防災の経験を活かせないかと考えて防災士の資格を取りました。地域の防災の取り組みに役立てたいと思っています。

Q.地域や職場で何か防災活動に取り組んでおられますか？

A.今年初めに船橋防災連絡会が発足し、参加しました。今後は地元町会とも連携して活動してゆきたいと思います。

Q.2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A.ちょうど東京本社に出張し 23 階で会議中でした。ビルがゆらゆらと大きく揺れました。各工場、拠点の安否確認を取り、ビル内で避難しました。家族との連絡がなかなか取れず、不安な思いで一晩過ごしたことを覚えています。

Q.今、はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。

A.早朝ウォーキングです。谷津干潟を回り野鳥たちの季節による変化を眺めるのが楽しみです。

Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見などがありましたらお聞かせ下さい。

A.先輩方の知恵と経験を聞き教わることばかりです。スキルを磨き、地域の防災活動のレベルアップに役立てたいと思います。

Q.将来の夢をお聞かせ下さい。

A.今後大きな災害があっても向こう三軒両隣からは犠牲者を出さないようにしたいと思っています。

♪北部支部会員さん 紙上インタビュー♪

石田 健 (いしだ たけし) さん



Q.ご出身地と自己紹介を簡単をお願いします。

A.生まれは札幌です。父親の仕事の関係で物心ついた頃から東京の赤坂で育ち、その後渋谷、練馬と転居し現在は野田市に住み 25 年になります。

Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A.団塊世代として電気通信会社に入り、グループ会社を経て昨年 7 月に退職しました。大学卒業後、通信技術のエンジニアを目指しましたが、サラリーマン人生 47 年を振り返ると組織の調整、整備などの仕事が大半でした。

Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A 改めて聞かれると考えてしまいますが、興味があったので衛生管理者、環境社会検定、救命技能検定、防災士資格などを取りました。

Q.防災士になられたきっかけはなんですか？

A.3.11 の後、原発事故に関わる講演を聴講した時、自分自身が災害に遭遇したらどのようにしたらよいのか、何ができるのかなど感じるが多々あったためです。

Q.地域や職場で何か防災活動に取り組んでおられますか？

A.地域の社会福祉協議会、自治会などでは毎年消火、救護などの訓練を実施していますが内容の更なる充実をはかってゆきたいと考えています。

Q.2011 年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A.東京日比谷の会社ビル 6 階事務室におり、これまでに経験したことのない大きな縦て揺れを感じ、机の下に潜り込みました。以後、会社での対応と交通事情により 1 週間自宅に帰れませんでした。

Q.今、はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。

A.近所に河川敷があるので 1 日 10000 歩を目標に歩いています。またサイクリングや下手なゴルフを時々やっています

Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見などがありましたらお聞かせ下さい。

A.なるべく演習、訓練に参加しその経験とスキルを地域活動に役立てたいと考えています。

Q.将来の夢をお聞かせ下さい。

A.全国の災害発生地を自分の目で隈なく見てみることです。

～会員短信～

地域の避難所マニュアルを作成 梅木 満防災士



自治会長を務める梅木防災士は昨年 9 月、所属する浦安市立富岡小学校区の避難所運営訓練に参加して、避難所運営マニュアルの整備と住民への周知が必要なことを痛感しました。そこで学校区に所属する 5 自治会の会長さんに呼びかけてプロジェクトチームを作り、マニュアル作成に向けて活動を始めました。多くの自治会が自宅避難を中心に考えていたり、自分の団地の面倒を見るのに手いっぱいという状況で、避難所の開設や運営にかかわることに当初は戸惑いがありました。梅木防災士の熱意と努力で毎月マニュアル作成会議を開催し 1 月にマニュアルが完成しました。マニュアルは誰がやっても避難所開設が出来るよう簡潔な読み上げ式にし、災害時要援護者、女性、感染症者などに配慮しました。

2 月に学校関係者、浦安市防災課担当者、マニュアル作成プロジェクトチームメンバーの合同会議を開催してマニュアル作成の経緯と内容説明を行い、検討の結果富岡小学校の避難所運営マニュアルとして採用が決まりました。今後の避難所運営訓練を通じてマニュアル内容を検証し更に良い物にしてゆく計画で、第 1 回の訓練を本年 9 月に予定しています。避難所運営という共通のテーマについて自治会が協力し合えたことは今後の地域防災力強化のために意義のある一歩になったと思われます。

いのちの絵本朗読会の開催 中村あやこ防災士

中村綾子防災士が 1 月 20 日（土）に野田市で開催された～語り継ぐ東日本大震災～『いのちの絵本朗読会』の様子を伝えてくれました。これは宮城県石巻市立大川小学校を襲った大津波で子供を亡くされたお母さんたちが、我が子に宛てて綴った手紙などを中心に作られた絵本「ひまわりのおか」の朗読会で、一般社団法人三月のひまわりが主催し災害の記憶を風化させないようにとの目的で全国各地で開催を進めています。野田市に朗読会を招聘するきっかけは中村防災士が昨年 3 月 11 日に柏市で開催された朗読会を聴講してその素晴らしさに感銘したことで、同じ思いの人たちと共に市長、市教育長などに招聘を働きかけ朗読会を実現させました。

朗読会には市民約 800 人の聴講希望があり地元小中学生による合唱などを交え盛大に開催されました。参加者からは「命の大切さと親子の絆の大切さ」への感動の声と共に「これを決して風化させてはならない」との決意が聞かれ意義深い催しとなりました。

船橋防災連絡会を立ち上げ 新井勝美防災士

船橋市では平成 28 年度より、地域防災の担い手を育成する目的で防災士の資格取得費用を市が全額補助して市民防災士を育てるプログラムを導入し、新井防災士はその第 1 期生として防災士の資格を取得しました。新井防災士は市の目的に添うために防災士たちが連携して活動することが望ましいと考え、第 1 期生を中心に「船橋防災連絡会」（略称：船防）を作ることを提案し、立ち上げの準備を進めて来ましたが、本年 1 月に正式発足の運びとなり新井防災士が会長に就任しました。



船橋防災連絡会は船橋地域に特化して①防災活動の支援②災害時の支援活動③行政の防災活動の支援を行うことを活動の柱とし、安心安全な船橋市民社会の実現を目指します。構成メンバーは防災士に加えて、船橋市に在住するか船橋市内の企業に勤務する人で、防災についての有為な知見を持っている人であれば誰でも参加できるように門戸を広げています。今回は 15 名でスタートしました。毎年育成される市民防災士をメンバーに加えながら北部支部とも協力して活動を進め、地域防災力の向上に貢献することが期待されます。

手作り防災セットを語る 平山優子防災士

防災意識の高まる 3 月、価格 .com マガジン (<https://kagakumag.com/>) から「防災セットを手作りしよう！作り方の基本やコツを防災士に聞きました」というタイトルの記事が公開されました。この記事制作にあたり平山防災士が取材を受けました。記事は「少しでも多くの方が、もしもの時に備えるきっかけとなれば」という思いから企画されたものです。何のために誰のために準備するのか、事前の心得などにも触れた内容になっています。詳しくは以下のアドレスで見ることができます。



特別企画

<https://kagakumag.com/houseware/?id=11913>



追悼

防災士として長年活躍された藤下 進防災士が肺炎のため1月3日享年 77 歳でご逝去されました。5年前に食道癌を手術で乗り越えられましたが昨年春先に体調を崩されて11月から入退院を繰り返され、懸命の治療もおよばず帰らぬ人となりました。心から哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

藤下防災士は昭和 15 年に千葉県旭市に出生され大手電機メーカーを定年退職された後、習志野市吹上苑町会の役員に就かれ、自主防災会の副会長として長年地域防災に大情熱で貢献されました。藤下防災士が中心となり高齢者や要援護者の手助けをするボランティア組織「おたすけ隊」が作られ、地域一体で弱者養護の視点に立った防災活動が進められています。そうした活動が高く評価され、吹上苑町会は総務省の平成 28 年度第 21 回防災まちづくり大賞を受賞しました。

藤下防災士は平成 21 年に防災士の資格を取得された後、北部支部の草創期の会員としてまた役員としてご尽力され、地域と防災士会の両方にあって「良きご意見番」として豊富な防災の知見と行動力を発揮され多大な貢献をして来られました。その尊いご尽力に対し心から感謝申し上げたいと思います。

～北部支部の防災支援活動(2017年12月～2018年2月)～

北部支部は以下の防災行事に参加協力しました。

ご協力大変にありがとうございました。

- 12月2日(土) 船橋市三山地区三校合同防災講演
- 12月2日(土) 袖ヶ浦市 千葉県災害対策コーディネーター養成講座
- 12月3日(日) 津田沼ローヤルコーポ自治会防災訓練
- 12月3日(日) 栄町竜角寺自治会 DIG 訓練(印旛郡)
- 12月6日(水) 富里市(株)アルバック防災訓練
- 12月8日(金) 町田市テクノ工業団地防災訓練(東京都)
- 12月9日(土) 睦沢町 千葉県災害対策コーディネーター養成講座
- 12月9日(土) 木更津市中央公民館防災市民講座
- 12月10日(日) 千葉市高須3丁目町会防災訓練
- 12月12日(火) 船橋市立宮本小学校防災学習

- 12月16日(土) 袖ヶ浦市のぞみ野第一自治会防災訓練
- 12月16日(土) 千葉科学大学防災士要請講座
- 12月19日(火) 船橋市立宮本小学校防災学習
- 12月21日(木) 館山市安房高等学校防災訓練
- 12月22日(金) 世田谷区役所防災研修(東京都)
- 12月26日(火) 袖ヶ浦市キッズパレット防災学習
- 1月17日(水) 酒々井市・佐倉市教職員組合防災研修
- 1月20日(土) 木更津市中央公民館防災市民講座
- 1月21日(日) 野田市地域防災リーダー研修
- 1月27日(土) 船橋市防災フェア
- 1月27日(土) 木更津市西清川公民館防災学習
- 1月28日(日) 八千代市八千代台公民館防災講演
- 2月3日(土) 八千代市高津公民館防災講演
- 2月4日(日) 野田市岩名第5区自治会防災講習
- 2月11日(日) 船橋市法典3丁目自治会防災講習
- 2月12日(月) 野田市ライオンズマンション野田梅郷防災訓練
- 2月17日(土) 木更津市中央公民館防災市民講座
- 2月24日(土) 栄町自主防災組織防災リーダー防災講演(印旛郡)
- 2月25日(日) 白井市西白井自治会防災訓練



新会員の紹介

2017年12月以降、以下の方々が北部支部の会員になりました。
北部支部の会員数は98名です。(2018年3月10日現在)

櫻木谷洋さん(習志野市) 布施孝一さん(習志野市)
高場捷美さん(茂原市)

編集後記

寒かった冬もようやく陽春へと季節は移りました。
忙しい支部活動が続いています。記事でご紹介できるのはそのほんの一部ですが、「北部支部の防災支援活動」で紹介した沢山の活動の様子はホームページでご覧いただけます。今号の「会員短信」では四人の会員の皆様による地域での地道な活動の様子をお伝えしています。今後ともご紹介してゆきたいと思いますので皆様からの寄稿をお待ちしています。(茂木)

広報担当：茂木 宏 岩下裕二 飯岡 孝 中村あや子 村岡 綾

事務局の連絡先：竹内哲志 (takeuchi.srmmp@nifty.com)

広報担当の連絡先：koho.chibakita.bousaisi@gmail.com

